
アーバンリグ URB-10
有機物 (鳥獣類系) 専用 1 トン処理機
実証レポート



ONEWORLD Oneworld corporation

Headquarters / 4-7-24 Tatsumimi-nami, Ikuno-ku, Osaka-city, Osaka, Japan. Zip: 544-0015
Phone: 06-4392-7666 (Japan) URL: www.1-worlf.asia e-mail: info@1-world.asia



有機物 (鳥獣類系) 専用 1 トン処理機・実証レポート

	項目	岡山	北広島
1	日時	令和1年5月3日	令和1年5月8日
2	場所	組立工場 / 岡山市東区邑久郷地内	北広島町・芸北広域きれいセンター
3	処理時間	12時間 (8:30 ~ 21:00)	10時間 (6:10 ~ 16:10) ※ 要望により 2 時間早く処理を終了
4	投入物	イノシシ(大) / 59.1kg (冷凍状態)	ニホンジカ / 約45kg
		イノシシ(小) / 27.8kg (常温・腐敗状態)	タヌキ / 約15kg
		イノシシ(内臓) / 3kg	毛布 × 2 枚 / 7kg (3,5×2)
		ポリエチレン袋 / 5g (内蔵保管用)	トン袋 × 3袋 / 6kg (2kg×3)
			土砂 / 35kg
		ガラス瓶 / 2kg	
5	投入物の合計質量	89.95kg	110kg
6	非炭化物の質量計	0kg (非炭化物無し)	土砂・ガラス瓶 (計: 37kg)
7	処理後・残渣質量計	合計質量 : 13kg	合計質量 : 51.5kg 1 (①+②) 炭化可能相当分重量 : 14.5kg ① 非炭化重量計 : 37kg ②
8	減容率	14.45 %	46.82 % (全て含む) 19.86 % (土砂とガラス瓶除いて換算)

岡山での実証実験は処理機の準備調整後、2頭のイノシシと3kgの内臓を投入し順調に進められた。唯一の想定外の出来事としては、反応炉温度が300度から400度の過程で、イノシシの水分を多く含んだ部位、胃袋、腸管、膀胱などが、膨らんで大きく破裂するような現象が見られたことと、その後、大量の排出液が約50ℓが放出された。この排出液は異常な悪臭を放し、効果的な利用方法、または処理方法を模索していかなくてはならない問題と考える。

北広島町での実証実験は岡山とは異なり、動物だけでなく実際に展開していく上で、起こりうる付随物の混入と処理運転の短時間化を実験することができた。処理時間が短くてすむ動物の炭化処理は問題なく終了したが、樹脂系であるトン袋は、十分な時間が確保できないため、完全な炭化に至らない部分が多少見られた。



事前実験レポート画像

[投入物 / 岡山]



[投入物 / 北広島]

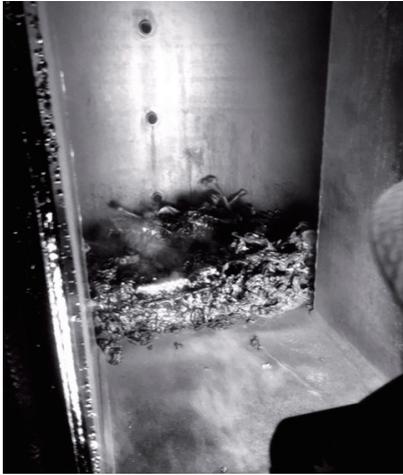


[処理機]
岡山
/ 北広島町・トラック積載





[処理後・取り出し / 岡山]



[処理後・取り出し / 北広島町]



[処理中に排出された体液 / 左：岡山 右：北広島町]

※ 現在の対応：日本食品分析センターに分析依頼中 (2019.05)

